

令和3年度 旭区運営方針（抜粋）

具体的取組 1-1-2

【大阪市版ネウボラの展開】

		元決算額	2,741千円	2 予算額	5,226千円	3 予算額	4,330千円
計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）					
	・大阪市版ネウボラを展開しポピュレーションアプローチとしての妊婦健診、新生児訪問、乳幼児健診等を通じ、乳幼児とその保護者の心身の健康の保持を支援する。 ・発達障がい等の早期の気づきによる早期支援にかかる事業の強化 乳幼児健診、赤ちゃん広場、発達相談等の他、乳幼児が集まる場での相談、電話や来所での常設健康相談等、あらゆる機会に臨床心理士が保健師と連携し、発達障がい関係の相談支援を行う。 ・あさひプレバパママレッスン（妊婦の交流会）を休日に開催する。【改訂履歴あり】 ・授乳をはじめ、妊娠、分娩の不安や悩み、家族計画等に関する助産師による相談機会として、授乳ケア・育児相談事業を実施する。 ・生後1歳になるまでの育児不安がある家庭に対して、助産師による専門的家庭訪問を実施する。	「常設健康相談」、「乳幼児健診」に来所する保護者にアンケートを実施し、担当保健師及び地区担当制を知っているという割合が50%以上 【撤退・再構築基準】 上記目標が30%を下回った場合、事業を再構築する。					
		前年度までの実績					
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	① (ii)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	①: 目標達成(見込) (i) 取組は予定どおり進捗 (ii) 取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i) 取組は予定どおり進捗 (ii) 取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成		新型コロナウイルス感染症の拡大防止により、プレバパママレッスン及び赤ちゃん広場は開催できていない。今後、感染状況等をみながら開催に向けて取り組んでいく。				
	戦略に対する取組の有効性	—	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す —: プロセス指標未設定(未測定)				

具体的取組 1-1-3

【子育て支援・相談機能の充実】

		元決算額	695千円	2 予算額	1,309千円	3 予算額	1,106千円
計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）					
	・子育て中のお母さんの負担軽減やストレス解消などの各種講座を開催する。 ・家庭児童相談員による発達障がいに関する相談支援事業や発達障がいに関して保護者の理解を深めるためのワークショップを実施する。 ・子育て相談メールや子育て相談LINEの開設などにより、いつでも保護者の悩みを受け付ける。	講座やイベントでのアンケートにおける満足度70%以上 【撤退・再構築基準】 上記目標が50%を下回った場合、事業を再構築する。					
		前年度までの実績					
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	① (ii)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	①: 目標達成(見込) (i) 取組は予定どおり進捗 (ii) 取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i) 取組は予定どおり進捗 (ii) 取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成		子育ての負担軽減を図る講座 ・ノーバディーズ・パーフェクト・プログラム(元年度1回、2年度実施せず) ・お母さんのほっとタイム(元年度7回、2年度6回) 発達障がいに関する支援の取組 ・ペアレントトレーニング(元年度1回(7名)、2年度1回(7名)) ・さくらんぼグループ(3歳児)(元年度17回(9名)、2年度12回(6名)) ・プレさくらんぼグループ(2歳児)(元年度13回(13名)、2年度7回(8名)) 情報発信 ・幼稚園・保育所(園)情報フェア(元年度1回、2年度Web開催) ・子育て情報誌の発行(元年度4回、2年度4回) ・子育てわいわい広場(元年度1回、2年度実施せず)				
	戦略に対する取組の有効性	ア	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す —: プロセス指標未設定(未測定)				

具体的取組 1-2-5

【子どもがたくましく未来を生き抜く力をつける取組】

元決算額 785千 円 2 予算額 2,306千 円 3 予算額 2,952千 円

計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）
	次世代を担う子どもが、人間性や社会性など未来をたくましく生き抜く力を育むために、区内の小・中学校及び子ども食堂などを通じて、キャリア教育や命の教育（虐待防止）、防災・減災教育、食育などのプログラムを体系的に実施する。 ○中・高生自立育み事業（キャリア教育）【具体的取組1-2-4の再掲】 ・各種職業従事者を招いて講話及び体験講座を実施する。 ・区内企業等の協力により職場・施設等の見学を開催する。 ○命の教育プログラム「リアルケアベビー体験学習」事業【具体的取組1-1-1の再掲】 ・中学生を対象に将来の虐待防止などを目的として、赤ちゃん人形を使った育児体験を含む命の教育を実施する。 ○防災教育プログラム「旭区防災マスター」育成事業【具体的取組4-1-1の再掲】 ・大阪市立大学との連携により中学生を対象に防災教育プログラムを実施する。 ○食育推進事業 ・「子ども食堂」に講師や支援員・ボランティアを派遣し、参加する子どもに対して、食の大切さや食事作法、生活習慣などを学ぶ機会を提供する。 ・子ども食堂ネットワーク会議の開催など、各運営主体との連携を強化し、事業の安定的な推進に向けて支援を行う。	各事業の参加者が自分の将来に役立つと思う割合 80%以上 【撤退・再構築基準】 上記指標が50%を下回った場合は、事業の見直し又は再構築を行う。 前年度までの実績 ○中・高生自立育み事業（キャリア教育）【改訂履歴あり】 ・元年度 参加者36名、2年度 参加者35名 ○命の教育プログラム「リアルケアベビー体験学習」事業 ・3年度新規事業 ○防災教育プログラム「旭区防災マスター」育成事業 ・3年度新規事業 ○食育推進事業【改訂履歴あり】 ・子ども食堂ネットワーク会議の開催（元年度6回、2年度4回） ・里親シンポジウムにてパネル展示と子ども食堂開設（元年度1回、2年度は里親シンポジウムが中止となったため総合文化祭で展示） ・教員採用にかかる加算制度ボランティア（元年度3人、2年度2人）

中間振り返り	プロセス指標の達成状況	① (ii)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①: 目標達成(見込) (i) 取組は予定どおり進捗 (ii) 取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i) 取組は予定どおり進捗 (ii) 取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す —: プロセス指標未設定(未測定)	子ども食堂は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止により、10か所中9か所で開催できていないため、実施できていない取組もあるが、今後感染状況をみながら、子ども食堂が開催できればその状況に応じて必要な支援を行っていく。

具体的取組 2-2-1

【誰もが活躍できる仕組みづくりの推進】

元決算額 829千 円 2 予算額 854千 円 3 予算額 700千 円

計画	当年度の取組内容		プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）	
	・障がい者福祉事業所の授産製品の物販や、作品展示等の場を提供し、活動の周知を行う。 ・「障がい者週間」(12月3日～9日)に合わせて開催される座談会や交流会を通じて、また区の広報媒体を活用し、障がい者福祉に関する理解を深める啓発活動を行う。 ・旭区障がい者基幹相談支援センター、旭区地域自立支援協議会の活動の周知を行う。		授産製品の物販等の活動している団体や事業所に、活動の支援についてのアンケートを実施 満足度80%以上 【撤退・再構築基準】 上記アンケートにおいて満足度が70%を下回った場合、事業を再構築する。 前年度までの実績 ・旭区地域福祉計画の策定 2年度 ・授産製品の物販支援 区役所庁舎内及び「あさひあつたかサテライト」における物販 元年度 5月から月1回(3月は中止※) 2年度 6月から再開 区役所庁舎内月2回、サテライト月1回 ・和んで座談会の開催 元年度は中止※、2年度は開催見送り※ ※ 中止及び未開催は新型コロナウイルス感染症の拡大防止による	
中間振り返り	プロセス指標の達成状況		① (ii)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①: 目標達成(見込) (i) 取組は予定どおり進捗 (ii) 取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i) 取組は予定どおり進捗 (ii) 取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成			障がい者福祉事業所の授産製品の物販については、8月2日から緊急事態宣言期間中は開催できていないが、感染状況をみながら引き続き活動を支援していく。
	戦略に対する取組の有効性	—	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す —: プロセス指標未設定(未測定)	